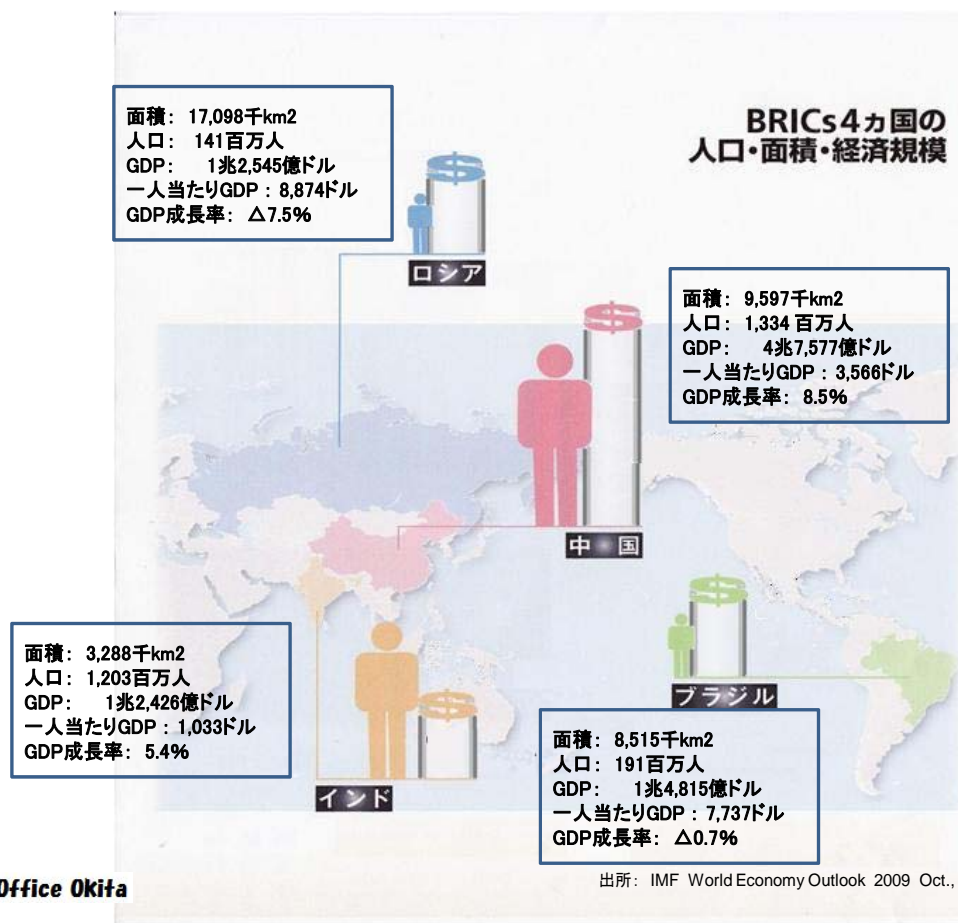


2009 年末の BRICs と NEXT11 のデータ

2010 年 4 月 15 日

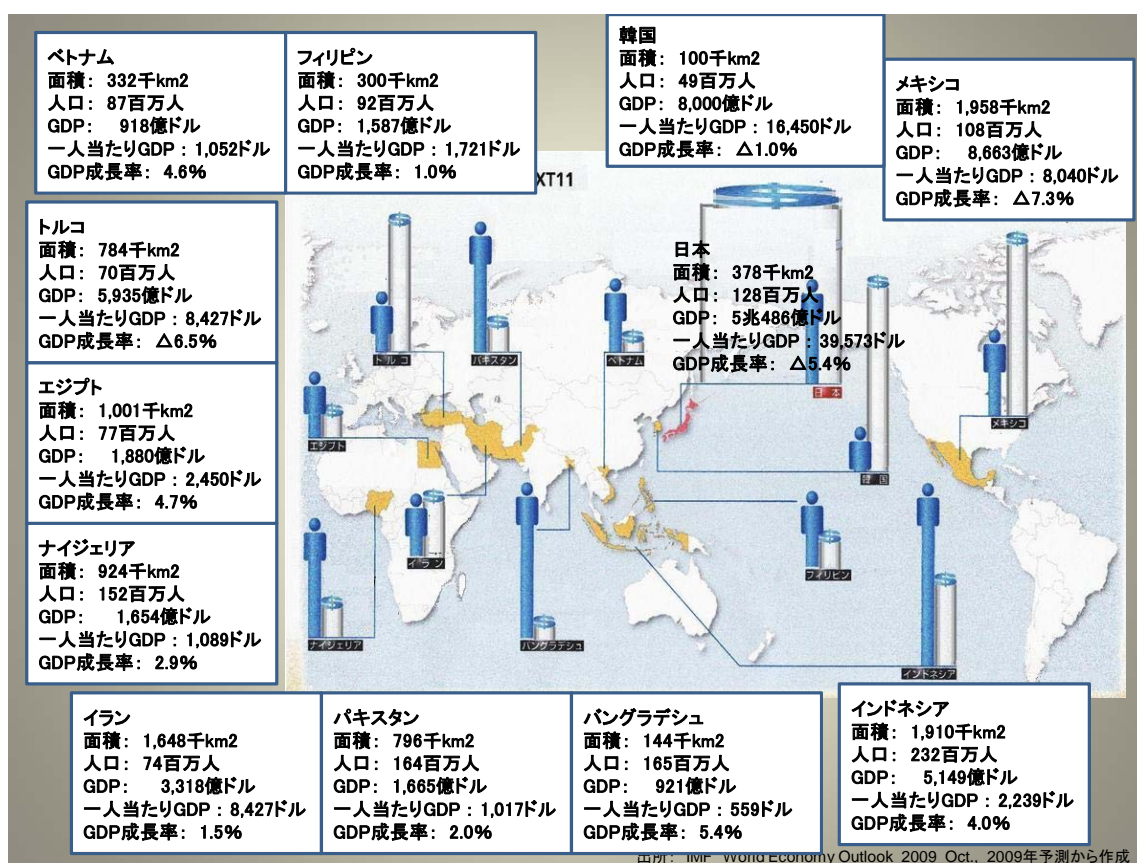
BRICs 4カ国の存在感が経済的にも、政治的にもさらに拡大してきている。4月15日には、第2回のBRICs首脳会議がブラジルで開催され、IMFをはじめとする国際的な金融制度に対する関与を拡大していくことを確認している。中国、インドの経済は、すでに拡大基調に戻りつつあり、NEXT11は各国各様であるが、同様に今後の成長が視野に入ってきた国も出てきている。

国際通貨基金（IMF）の2009年10月のWorld Economic Outlookのデータに基づき、2009年末時点でのBRICsとNEXT11の15カ国の人口、GDPにつき再度整理した。それを『BRICsとNEXT11のすべて』の地図にプロットしたものが下記の2図である。



BRICsの中でも人口が大きく国内需要の大きな中国とインドの経済は、G7各国が09年はマイナス成長となる中でかなり高い成長をしており、リーマン・ショック以前に戻りつつあるといえるだろう。2009年はエネルギー輸出の減少による影響を大きく受けたロシアのGDP成長率が大きくマイナスとなり、先進国型の経済システムに組み込まれているブラジルもマイナス成長となった。しかし、この両国も2010年は世界経済の回復基調の中で、回復していく見通しである。

NEXT11の図には、参考までに日本の数字も入れた。2010年には中国のGDP総額が日本を越えることがほぼ間違いないと言われており、図のドルマークの円柱の面積で、日本と他の国々の大きさを比較すると、中国のGDPとの比率もほぼ同じと考えてよい。

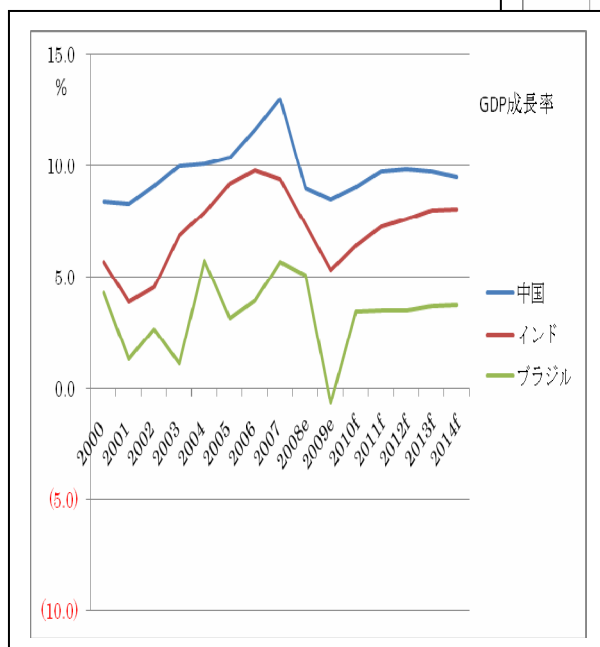
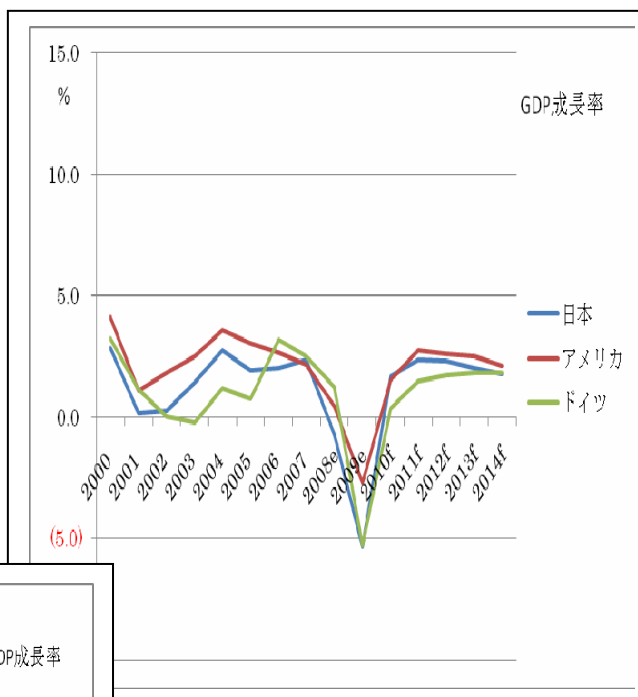


韓国、メキシコ、トルコの3カ国はOECDメンバー国であり、先進国経済に大きく影響され、09年の成長率はマイナスとなっている。その他8カ国については、個々の国の状況により異なっているが、それぞれプラス成長を確保している。

● 各国 GDP 成長率の推移

先進国、BRICs、NEXT11 の代表的な国の経済成長率の推移を図示した。

過去 10 年ならびに 2014 年までの実績および予想をみると、中国、インドの成長の著しいこと、および NEXT11 の国々の潜在力が見えてくる。2000 年代半ばの好景



気を経て、2008 年、2009 年はすべての国が世界金融危機の影響を受けている。ただし、新興国の中で比較的アジア諸国への影響が小さい。

以上

